

久留米

通高
信専

第61号

[APRIL 25, 2009]

久留米工業高等専門学校企画主事室
〒830-8555 久留米市小森野1-1-1
TEL:0942-35-9300
<http://www.kurume-nct.ac.jp/>

2009年 卒業生に贈る言葉

前田三男（校長）



本科5年間、専攻科2年間の課程を無事に終えられ、久留米高専を卒業される皆さん、ご卒業おめでとうございます。本日の卒業式では満開の桜に送られて、本科182名、専攻科34名の学生諸君を送り出すことができました。

久留米工業高等専門学校は、実社会で役に立つ実践的な技術者の育成を目的として、昭和39年に設立され、多くの有能な技術者を産業界に送り出してきました。その実績は産業界からも高く評価されています。しかしながら、高専が設立された40数年前と今では、日本を取り巻く環境が大幅に変わりました。日本の高度成長期は1990年代の初め頃起こったいわゆる「バブルの崩壊」で終わりましたが、これも過去のことになりつつあります。考えてみますと、今年本科を卒業される諸君は生まれたときからずっと、多少の波はあるものの日本の経済は低迷し続け、将来に対する社会的な不安が常態化した時代に育ってきたことになるようです。また最近ではアメリカでの金融バブルの崩壊をきっかけとして、全世界的な不況に陥っていることは、皆様もご承知の通りです。

諸君もこういった難しい時期に社会に出ることになり、そのことに大きな不安を抱いている人も多いと思います。しかしながら、明治時代以降の日本の近代化の歩みを大きな目で眺めてみると、1970年代以後約20年間の高度成長期は、むしろ非常に特殊な時代だったのではないのでしょうか。貧困とか就職難とかいった社会問題が久しく忘れ去られていたという意味でも、歴史的に特殊な時代だったように思われます。

社会人の第一歩は経済的な自立です

私は入学式の時にはいつも、本校の基本理念にうたわれた「自立の精神」の重要性を強調しています。新入生に私が「自立しろ」という場合には、まず親離れをして、学校という小さいながらもひとつの「社会」の中で、規律を守り、みんなと協調しながら、自己研

鑽を積むという、「自立」としては第1段階のことを要求しているわけですが、卒業生の諸君には、もっと高度な意味の「自立」を求めたいと思います。

その第一はなんといっても経済的な意味での自立です。つまり、自分の力でお金を稼ぎ出さないといけない。これができないと一人前の社会人としては認められません。そのためには、当たり前のことですが、ちゃんとした職業を持ち、毎日働かないといけません。

最近「3丁目の夕日」というのが映画化され、若い人たちにもよく見られているようです。これは日本が高度成長期に入る前、1960年前後における東京の下町の庶民生活を正確な時代考証に基づいて描いたもので、私の年代の人には強いノスタルジーを感じさせる映画です。その一方で、おおくの若い人にも共感を持って見られているのは、現在の風俗とかなりの類似性が見られるためではないかと思っています。

しかし「3丁目の夕日」の時代に比べて根本的に変わったのは、いろいろな意味で世の中が多様化したことです。あの時代には社会の構造はもっとシンプルで、学校を卒業した後も、それほどいろいろな選択肢はありませんでしたし、運良く仕事を得ることができたら、困難に出会っても、それに一生しがみついて行くほかありませんでした。ところが現在の若者は、贅沢な話ですが、むしろ選択肢の多さに悩んでいるように見受けられます。なかなか自分の将来が決められず、また一旦就職しても目移りがして、ちょっとした困難に挫折してしまいます。これは、大変不幸なことだと思います。

できるだけ自分に適した仕事を見つけ、自分の才能を生かしていくのは重要なことです。諸君もそのことに全力を尽くし、各々の持つ資質を十分発揮して、社会的にも大いに活躍してほしいと思います。しかしどのような仕事でも本気で立ち向かえば、いろいろと

困難な事態に遭遇するものです。私が皆さんに申し上げたいのは、何事でもうまくいかないときに、それを他人のせいにはしないことです。社会が悪いとか、会社の仕組みが悪いとか、上司が悪いとか、うまくいかないことを他人のせいにして、自分を納得させてしまう人がいますが、これでは何も解決しません。世の中には同じような境遇でも、ちゃんとうまくやっている人はたくさんいるのです。

周りにいる人たちとの関係を安定化する

経済的な自立と同時に、もう一つ精神的な面での「自立」が重要です。「自立」といっても人間は一人だけでは生きていくことはできません。少し抽象的な言い方になりますが、精神的な自立とは、自分の周囲にいる人たち、夫婦とか親族、職場の人や友人、そういった人たちと自分との関係を安定させ、自分の居場所をしっかりと持つということです。人生の悩み事の多くは、そういった人たちとの関係が不安定になったり、破綻した際に起こります。これは大変難しい問題で、いろいろな経験を重ねながら解決しなければならない一生の課題なのかもしれません。家庭も含めて、自分が社会のなかで、どんな位置を占め、どんな役割を演じているかということに見極めを付けることは、別の言葉で言えばその人のアイデンティティを確立することといってもいいでしょう。

それに関して、最近私は若い人たちに不安を感じることはありません。それは町の至るところで見られる携帯電話です。近年、携帯電話ほど我々のライフスタイルを変えた発明はほかに見あたりません。それが持つ便利な情報交換の機能を否定するつもりはありませんが、それにしても、一日中皆さんはどれくらいの時間を携帯電話に費やしていますか？皆さんはそれほど、他人にぜひ伝えねばならない重要な情報をお持ちなのでしょうか？

私には携帯電話に没頭する若者の姿は、自分と世の中とのコミュニケーションが絶たれると、自己の存在自身が危うくなりそうに不安をおぼえて、それを携帯電話でカバーしているかのように見えます。「自立する」というのは、世の中との関係を断ち切るのではなく、良好な関係を維持することにあるのは確かですが、電話による交信、特に電子メールによる交信となると、その人間関係はかなり希薄なものです。携帯電話の中毒になっている人は、一度きっぱりとそのスイッチを切ってみてほしいと思います。孤独に耐える勇気を持つことも、自己確立の重要な要素です。

日本人としてのアイデンティティ

もう一つ皆さんにお願いしたいのは、自己のアイデンティティと同時に、日本人としてのアイデンティティもしっかり持つてほしいということです。「日本人としてのアイデンティティ」を

「愛国心」という言葉で言い換えると多少反発される方がいるかもしれませんが、自分が「日本人であること」を強く意識するのは、日本の社会にいるときより、むしろ外国人と付き合っている時です。現代は国際化の時代であるといわれていますが、同時に民族自決の時代でもあります。この数十年間に世界の国の数は2倍にもなりました。国際人としてそういった国の人たちと付き合うには、まず日本人としてのアイデンティティをしっかりと持ち、同時に相手のアイデンティティを尊重しなければなりません。

日本人としてのアイデンティティとは、日本の文化や歴史を基盤にして自己の存在を確認するということです。同様に、相手の国のアイデンティティを尊重するというのは、その国の歴史や文化を尊重することにほかなりません。それらは一言で言えば「教養を持つ」と言い換えてもいいかもしれません。広い歴史的な視野と、豊かな文化的な素養の上に立って、自己の存在を見つめることは、「自立の精神」の基本でもあるといってもいいでしょう。

様々な障害と対峙してゆくのが人生です

確かに時代は流動性を増し、透明さを欠いてきているように見えます。そのことに諸君は、不安を募らせているかもしれません。私が大学を終えたのはちょうど先ほど申しました映画「3丁目の夕日」の時代です。その頃も日本の先行きはどうなるかまったく分かりませんでしたし、それから40数年たった現在の自分自身の姿をまったく描くことはできませんでした。諸君の未来はことさら暗いわけでもなく、かといって明るいわけでもありません。どの時代にもさまざまな障害は存在します。それと対峙してゆくのが人生です。諸君の明るい未来は自分自身で切り拓くしかありえません。ぜひしっかりと自立の精神を養い、精一杯自分の可能性を追求して生き抜き、自分で納得のゆく人生を築いてほしいと思います。



高専生活を振り返って

機械工学科5年 上脇 彬

気付けばもう卒業することになります。自分は、1年留年をしたので6年という長い高専生活が終わります。留年をした自分がこの文章を書くことに違和感を覚えますが、それが久留米高専機械工学科というものなのかもしれません。

留年をし、まだ社会にも出ていない若造の戯言にはなりますが、せっかく機会を頂いたので自分が高専生活を通して考え、思ったことを書かせて頂こうと思います。

久留米高専を含め高専という学校は、通う学生にとってそれまでの人生の約4分の1の時間を過ごすことになります。しかも、高校生の頃から20歳までと人格形成において最も大切な時期にです。私は、その時期にどのような環境に身を置くのか?ということが「今」という時間と、これからの人生に大きく影響すると思います。

人は環境によって良くも悪くも変化するものです。ですから、今高専に通っている学生をはじめ新入生の人達、また、教える側である先生方、保護者の方々も含め「環境をどのようなものにするのか?」「この環境が与えるものは何か?」ということを決えず客観視し、考えて頂けるといいなと思います。

自分はこの学校を客観的に見ると、クラス替えが無く5年間同じ人達と学校生活を共にすることになり、環境の変化が乏しく何かしらのコミュニティに身を置かないと視野が狭くなると思います。視野の広さは、人としての幅の広さになるのではないのでしょうか?久留米高専は今のところ自由な校風なので、高専生活においてただ授業を受けるだけで他に何もしないのはもったいない…。

さんざん言ったわりに大した事のない自分の環境なのですが、自分は高専生活を寮で過ごし、ラグビー部に所属しながらバイトをしていたことで、様々な人との出会いがありました。それにより、かけがえの無い友人との出会いがあり、苦手な人も含め人との接し方、物事の進め方、人のまとめ方等、授業では学ぶことの出来ない様々な事を学びました。また、ラグビー部に入部したことで人生に大切な良き恩師に出会う事もできました。寮、部活動、バイトという環境に身を置くことで、高専生活を自分の人生において貴重な財産にすることができたと思います。自分という人間と関係のあった友人、先生方、ならびに学内関係者の皆様、ありがとうございました。

今、高専に通っている生徒をはじめ、これから高専生活を始める新入生の人達は卒業時に自分が「良い高専生活だった。」と言える様に頑張ってください。

「高専に来てよかったー」

制御情報工学科 高瀬章充

私にとって春は、桜というよりも菜の花です。高専入学直前、菜の花が咲き誇る筑後川沿いを通ったことを今でも覚えています。あのときから早くも5年がたってしまいました。中学3年の時、高専に行くか、地元の進学校に行くかとも迷いました。当然高専に行けば住み慣れた地元から離れることになります。その迷いは私が高専3年を迎える頃まで続き、特に大学受験に向けて勉強する出身中学校の友達の様子を見ている時は不安になったものです。

転機は3年生の夏休みでした。サマーサイエンスキャンプという文科省主催の研修で3日間東京の研究所に行ったときに、有名大学の付属高校の生徒らに会いました。そこで感じたのは自分の知識の多さでした。高専では大学受験に必要な勉強はできませんが、技術系の現場での知識や考え方はしっかりと教えられていたことに気づきました。一度外に出て自分の環境を見ないと、自分が何をしているのかに気づくことができないとわかりました。この時、私は抱いていた迷いを消し去ることができたと思います。

高専の強みとしては、企業インターンシップに19歳の歳で行けることだと思います。



通常インターンシップは大学3年生、21歳の歳で行くものですが、早い時期に比較的大きな企業の現場を体験できる点は、自分の進路設計に大きな影響を与えたと思います。

また、学生大会・体育祭・高専祭の運営が学生に任せられているのも久留米高専ならではの点でしょう。しかしながら、学校と言う場所は様々な制約が課せられています。何でも出来るわけではないので、そこで学生と先生方で知恵を出し合い、どのようなものか協議し、久留米高専らしいものを作り出していかなければなりません。それは非常にスリリングな経験で、体育祭で実行委員長をやりきった後の達成感と言葉では言えないものがありました。わたしの高専生活の上で欠かせなかったことは寮生活です。寮長を務めた5年次には、今まで行われてなかったごみの分別収集や学生主体の寮運営のための組織作りにも奔走しました。この経験が話し合いの大切さや組織の重要性を認識するきっかけとなりました。

いろんな経験を通して、この5年間で大きく成長することが出来たと思います。そして今、私は迷わず言えます、「高専に来てよかったー」と。

卒業生の言葉

高専生活を振り返って

電気電子工学科5年 桑原 政成

桜の咲く頃に初めてこの高専の門をくぐってから時が過ぎ、つい卒業を迎えることとなりました。私にとって、この5年間は本当にあっという間で、いまだに卒業するという実感がわからないのが正直な気持ちです。

高専生活を振り返ってみると、一番印象に残っているのは、やはり部活動です。卓球部に所属し、頼りになる先輩方や気の合う仲間たちに出会うことができました。入学した当初は右も左もわからず、戸惑うことも多かったのですが、部の先輩方に高専生活のノウハウを教えていただいたことで次第に慣れていくことができました。私が低学年のときの高専大会で、チームが負けてしまったことをきっかけに、「全国大会を目指して、また一から頑張ろう」と高い目標を持つようになってからは特に充実していました。当時の部長には部全体を引っ張ってもらい、その環境のなかで、私はのびのびと練習をすることができました。しかし、私が部長を引き継いだからはうまく部をまとめることができませんでした。部を引っ張っていくことの難しさを痛感し、苦悩することも多かったのですが、その経験から人に自分の考えを伝えることの大切さを学ぶことができました。残念ながら全国大会出場こそはなりませんでしたが、最後の高専大会では九州大会3位に入賞することができ、とても満足しています。部活動での全ての経験は自分を成長させてくれる貴重な財産となりました。今では部活動を続けることができていることに良かったと感じています。

部活動以外にも様々な人との出会いやたくさんの経験があり、私にとってはとても楽しく充実した5年間を送ることができました。今後は大学に進学します。これからの生活には不安もありますが、高専で学んだ知識や経験を生かしてさらに勉学に励み、社会で立派に通用していける人間に成長していきたいと思えます。

最後に、今まで支えてくださった先生方、高専生活を共に過ごした友達、そして家族には心から感謝の気持ちを述べたいと思えます。本当にありがとうございました。

高専生活を振り返って

生物応用化学科5年 嶋田 知輝

高専で過ごした5年間は僕の価値観を大きく変えた。その一番の要因は、友人関係だと思う。僕は、高専は規則にしばられないということにひかれて入学したが、その生活に慣れていくにつれて、自由な時間が多すぎることに戸惑い始めた。そして、自分はいったいどこに向かっていけばいいのか分からなくなっていった。適当な人間関係を持ち、ただそれなりに勉強していた僕に、「俺はお前のことが嫌いだ。」と言ってくれた人がいる。当時、この人は何を言っているんだ？と腹が立った。それが初めから自分を見直すきっかけになったことは間違いない。5年生になり、今までの生活を変えてみよう、やりたいことだけをやってみた。その中で得られたものもあったが、努力することも才能のひとつだということにも気づいた。何か迷ったとき、一度きっぱりとそれをやめて、休憩してみるのもいいのではないだろうか。自分のことで精一杯だったけれど、今思えば自分の周りには必ず誰かがいてくれて、いつも誰かが見てくれていた。5年間で、たびたび自身の中での葛藤があったが、高専に入り大人に近づき、不安や迷いに直面して始めて、友情が分かった。僕を理解してくれた人たちが今の僕を創造してくれたのだと思う。5年間のなにげない毎日が自分にとって重要なのは何なのか、気づかせてくれたのだと思う。

僕は、まだ二十歳であり、これからの新しい生活の中で、いろいろな経験と変化をしていこうと思う。そして、また、かけがえのないことを見つけていくのだと思う。感じたことを大切に、理想の自分に近づけるように、努力したい。卒業し、分かり合えた人と別れることは寂しいが、そればかりを嘆いて、立ち止まることはできない。別れの痛みは、再会の喜びに比べれば何でもないはずだ。変わらないものはない。常に変化し、次の段階へ進んでいこうと思う。昨日より今日、今日より明日、明日より明後日、日々変わり続ける！



卒業生の言葉

高専生活を振り返って

材料工学科5年 吉木 妙

高専に入学し、最初は夢があったわけでもなく、なぜ材料工学科を選んだのか自分でもよく分かりませんでした。1・2年生の時の授業は、数学や国語、英語、歴史などの一般的な科目でしたが、3年生から少しずつ専門科目が増えていき、また難しくなってきた当時は先生の板書をノートに写すので精一杯でした。4年生になり、ほとんどの授業が材料工学の専門科目で、時間割表をただでガックリした時もありました。しかし、それぞれの科目の内容と3年生での勉強とが繋がってきたことに気付き、理解出来る様になり、専門の授業が楽しくなりました。また、工場見学旅行に行き、鉄鋼材料がどのような製品になるのか製造工程を実際にこの目で見て、今までの勉強が各工場での様に役立つのかが分かり、更に専門科目に興味を持つことが出来ました。

また、私は5年間の高専生活の中で、クラスや、部活、他学科にも多くの友達ができました。辛い時や楽しい時に一緒に泣いて、笑って、励まし合いました。私のクラスは団結力が無いクラスでしたが、最後のクラスマッチでのバレー優勝!! 体育祭での看板優勝!! 最高の思い出です。

今回、卒業を無事に迎えることができ、先生方、友達、家族に本当に感謝しています。高専での出会いや、繋がりを大切にし、4月からは会社で頑張ります。

クラスのみならず!! 支えてくれて本当にありがとう!! みんなに出会えて本当によかったです。



修了生の言葉

専攻科をふりかえって

機械・電気システム工学専攻2年 田中裕介

専門の授業が楽しくなりました。また、工場見学旅行に行き、鉄鋼材料がどのような製品になるのか製造工程を実際にこの目で見て、今までの勉強が各工場での様に役立つのかが分かり、更に専門科目に興味を持つことが出来ました。

また、私は5年間の高専生活の中で、クラスや、部活、他学科にも多くの友達ができました。辛い時や楽しい時に一緒に泣いて、笑って、励まし合いました。私のクラスは団結力が無いクラスでしたが、最後のクラスマッチでのバレー優勝!! 体育祭での看板優勝!! 最高の思い出です。今回、卒業を無事に迎えることができ、先生方、友達、家族に本当に感謝しています。高専での出会いや、繋がりを大切に、4月からは会社で頑張ります。クラスみんな!! 支えてくれて本当にありがとう!! みんなに出会えて本当によかったです。

入学当初、さすがに本校での6年目は新鮮味が無いと少し後悔しました。本科入学当時から大学編入希望だったため、どこかすっきりしないと感じたこともありました。しかし、修了間近となった今では専攻科も悪くなかったと思っています。

本科の1学科から専攻科へ入学するのは7人程度です。そのため、専攻科における専門科目によっては少人数で授業を受けることになります。少人数クラスの利点は先生とのコミュニケーションがとりやすいことです。クラスが40人もいと授業で質問することをためらってしまいますが、少人数クラスではとにかく質問がしやすいです。授業の理解がしやすいと意外に授業は面白いです。

もう一つは、専攻科独特のクラス編成によるカリキュラムです。私は機械・電気システム工学専攻科に在籍していましたが、その名の通り、機械工学科、電気電子工学科、制御情報工学科の3学科が一つになったクラスです。本科では機械工学科だった人が、受けようと思えば電気電子工学科や制御情報工学科の授業を受けることができます。もちろん、他学科系の科目の単位をとることもできます。私は本科では機械工学科でしたが、電気について学んでみたくてプラズマ工学という授業を受講しました。テストには合格しましたが、専門外の分野は難しかったです。しかし、機械工学では使ったことのないようなアプローチの仕方やモデル化など新鮮に感じました。

本科生の中には専攻科に対して良いイメージを持っていない人もいます。かくゆう私もその一人でした。ただ、2年間在籍してみても言えることは、専攻科は結構良いところですよ。ただ、大学院へ入学したい人は要注意です。大学院の入学試験と学位授与機構への研究論文の提出が同じ時期にあります。くれぐれも計画的に。

専攻科修了にあたって

物質工学専攻2年 千原 裕基

私にとって高専での日々は人生の1/3を占める長いものでした。中学卒業から今に至るまでの多感な時期にこのパッションートな久留米高専で過ごせたことは私の人生において大きなプラスであったと思います。高専の特色である専門教育をはじめとして、15歳から22歳（場合によってはそれ以上）が混在するキャンパスでの幅広い世代間の交流、緩い校規、活発な部活動、インターンシップそして学会といった活動の中で、私のアクの強い、もとい特色溢れる人間としての土台が作られていったと感じています。

後輩に伝えたいことは多くありますが誌面の都合上、本科生へのアドバイスを2点とさせていただきます。まず1点目としては、高専生活においてクラスが変わらないことから、他の大学生と比べてコミュニケーション能力に乏しい傾向がありますので、部活やバイトといったクラス以外でのつながりを持つように気をつけてください。ただそれらに没頭し過ぎないように注意しなくてはなりません。

本分は勉強です。また2点目として、4年生の後半で就職もしくは進学といった人生の選択をすることになりますので、将来の目標を早めに決めていたほうが良いです。就職と進学とでは社会でやる仕事が変わる可能性が大いにあります。今の専攻と合わないと思った場合は編入なども1つの手段です。私を含め一般的に高専生は追い詰められないと行動に移らないので、後悔しないよう早めの対策を心がけることが大切です。私の場合は将来、研究・開発分野の職に就いてみんなが笑顔になるような製品をつくりたかったので、リーズナブルな専攻科を経て大学院に進む道を選びました。まずは将来への妄想をフルに膨らませながら、自分の夢に対するベストアンサーを模索していったらと思います。マイペースで頑張ってください!

最後ではありますが、長きに渡りお世話になりました先生方、そして事務部の皆様、本当にありがとうございました!

退職教職員からの言葉

久留米高専を
去るにあたって

制御情報工学科 赤坂 則之



企業を定年退職し、2000年(平成12年)に本校に赴任し、以来9年間に亘り楽しく充実した日々を送ることができました。これも皆様方のお蔭と感謝しております。

顧みますと、産学民連携活動への取組みが思い出されます。フォーラム開催、地域企業との共同研究、地域の教育機関・商店街との連携企画など多様な活動に対して地域住民および本校全職員から頂いたご協力にお礼申し上げます。当時企画した地域共同テクノセンターも、ようやく設置が確定し、皆様に魂を入れてもらえることを念じております。今や先生方の産学連携活動も多大の実績を積み上げてこれ、本校の連携活動取組みの変貌を実感しています。

学生の教育にも尽力しましたが、気がかりなことは学生の英語力です。本校の外部評価委員である企業人からの本校学生の英語力の改善が見られないとの指摘は、私が担当した専攻科授業「技術英語」から受けた感じと一致します。学生の英語力向上はJABEEのスローガンにも明記されていますが、スローガン達成のための具体的取組み(仕掛け)と熱意が必要と感じます。学生の意識も変わりつつありますが、更なる学生の意識変革を進めることも大きな課題です。今後の取組みに期待します。

最後に、教員、技術職員の研究環境について述べます。日本の企業での職場の多くは大部屋で、常時多数の人が業務を遂行する環境では、電話、話し声などの騒音は避けられません。本校に赴任して教員室という個室が与えられたときは、職場環境の「静寂」に感動を覚えました。学生の来訪はありますが、この恵まれた職場環境を最大限生かして、アイデア発掘、業務効率化等、教育・研究活動の益々の発展を祈念します。

人事交流教員からの言葉

人事交流による
久留米高専での1年間

材料工学科 池田 英幸

昨年4月、高専間の人事交流で鹿児島高専から久留米高専へ赴任しました。その当時、筑後川や宝満川沿いには、菜の花が一面に咲き、黄色い絨毯のようでした。今また川沿いは黄色に染まっています。「光陰矢のごとし」と言いますが、まさに短い1年間でした。私の専門は材料工学ですが、鹿児島高専では機械工学科に所属しております。こちらでは材料工学科に所属し、久しぶりに同じ専門分野の先生方や学生さん達と楽しく過ごすことができました。私を受け入れて下さいました校長先生や材料工学科の先生方に感謝しております。

鹿児島高専の機械工学科に一昨年度、久留米高専出身の若く元気のいい先生が赴任されました。その先生は、制御情報工学科の9年前の卒業生です。その先生から、久留米高専について事前に聞いてはいましたが、同じ国立の高専でありながら、色々な点で鹿児島高専との違いを感じました。本校では、授業の開始や終了を知らせるチャイムが鳴りませんが、授業などが問題なく行われています。ただし、私は、中間試験の後の授業で、試験の時間帯と勘違いをして授業が時間オーバーになり、学生さんから注意されたことがありました。また、校内放送も一切無く静かなキャンパスです。鹿児島高専では、昼休みや放課後は校内放送で騒々しくなります。些細なことと思われるのですが、本校では他から指示されるのではなく自律的な行動が必要です。また、学生主体の行事には、学校がほとんど容喙しない姿勢も感心しました。このような学生生活を過ごすと、指示待型ではなく自ら考えて行動できる人間になり、立派な社会人となることでしょう。

私の室の前の銀杏の木にカチガラス(カササギ)が巣をせっせと作っていましたが、2、3日前の朝、カラスがその巣を荒らしていました。卵をカラスが食べたのでしょうか? そのときから、カチガラスはその巣に戻ってきません。自然界の弱肉強食の厳しさを感じました。人間社会も自然界と同様、弱肉強食です。皆さんは、久留米高専という安全な巣に守られています。ここで、厳しい社会に負けないような学力や自立の精神を身に付けて卒業し、大いに飛躍して下さい。

NASA 宇宙飛行士特別講演会の様子

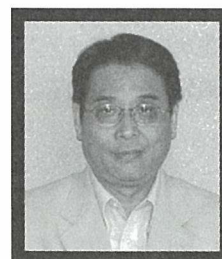
NASA 宇宙飛行士特別講演会
～ 'My 131 Days in Space' with Dan Tani ～

終業式（3月6日）当日の午後、久留米市民会館において、アメリカ国立航空宇宙局（NASA）宇宙飛行士のダニエル・ミチオ・タニ氏（Mr. Daniel M. Tani）をお迎えし、久留米高専主催の特別講演会を開催しました。この特別講演会には、久留米高専の学生に加え、一般市民や近隣の篠山小学校や明善高校からも多くの聴衆が集まり、1100名を超える大盛況となりました。数社のマスコミによる取材も行われ、翌日には、新聞報道もされました。

講演者のタニ氏は日系アメリカ人で、2001年から昨年までスペースシャトルによる宇宙飛行を2回経験された宇宙飛行士です。131日にもおよぶ長期の宇宙滞在の体験を、美しい写真や動画を使って、若い方々向けにお話しいただきました。講演の後、小学生から一般市民の方々市民の方々まで、数多くの質問が飛び出しましたが、そのひとつひとつに、タニ氏には丁寧にお答えいただきました。宇宙開発に向けて地域の若者の夢を育むことができたと同時に、今春久留米高専を巣立った卒業生・修了生には、良い思い出になった講演会でした。



○訃報



本校、一般科目（理科系）の大串 伸准教授が、平成21年1月2日に急逝されました。大串先生は、昭和55年7月に長崎大学薬学部にて奉職され、平成3年4月に本校の一般科目（理科系）化学教室に助教授として赴任されました。教職員一同、謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

平成21年度 主事、学科長、担任等一覧表

◆ 主事

教務主事 馬越
 学生主事 櫻木
 寮務主事 江崎
 専攻科主事 泉本
 企画主事 綾部

◆ 学科長

機械工学科 松永
 電気電子工学科 池田
 制御情報工学科 江頭
 生物応用化学科 伊藤義
 材料工学科 奥山
 一般文科 平元
 一般理科 宮地

◆ 就職主任

機械工学科 松井
 電気電子工学科 長田
 制御情報工学科 川口
 生物応用化学科 富岡
 材料工学科 平野

◆ 学級担任

学科 \ 学年	1	2	3	4	5
機械工学科	小宮	米永	中尾	石丸	原田
電気電子工学科	赤塚	越地	高松	宮崎	平川
制御情報工学科	高橋	谷	松島	黒木	中野
生物応用化学科	福田か	松田貴	渡邊	梶	富岡
材料工学科	松尾	酒井	久保	周	矢野

◆ 専攻科担当

専攻 \ 学年	1	2
機械・電気システム工学専攻	大崎	丸山
物質工学専攻	平野	泉本

◆ 学生相談室

福田幸(学生相談室長)、森哲、小宮、笈木、山本哲、野田(看護師)、
 富田(非常勤精神科医)、穴井(非常勤カウンセラー)

◆ キャンパス・ハラスメント相談員

学生相談室長、松永、高松、江頭、津田、笹栗、福田か、中坊、江島與、吉松、
 田中義、野田(看護師)

□ 連絡先

学生課直通 0942-35-9316, 0942-35-9315

平成21年度 学年暦 前期

4 月		5 月		6 月		7 月		8 月		9 月							
日	曜	日	曜	日	曜	日	曜	日	曜	日	曜						
1	水	春季休業(～4/6)	1	金	1	月	1	水	1	土	1	火					
2	木		2	土	2	火	2	木	2	日	2	水					
3	金		3	日	3	水	3	金	3	月	3	木					
4	土		4	月	4	木	4	土	4	火	4	金					
5	日		5	火	5	金	5	日	5	水	5	土					
6	月	開寮(12:00)	6	水	6	土	6	月	6	木	6	日					
7	火	入学式	7	木	7	日	7	火	7	金	7	月					
8	水	始業式、オリエンテーション、クラス写真撮影 4,5年・専攻科健康診断	8	金	8	月	8	水	8	土	8	火					
9	木	授業開始	9	土	9	火	9	木	9	日	9	水					
10	金		10	日	10	水	10	金	九州沖縄地区高専体育大会(夏季)	10	月	10	木				
11	土		11	月	11	木	11	土		11	火	11	金				
12	日		12	火	12	金	12	日		12	水	12	土				
13	月		13	水	午前授業、午後クラスマッチ(本科午後授業なし)*	13	土	専攻科入学試験(前期)	13	月	13	木	13	日			
14	火		14	木	クラスマッチ(本科授業なし)*	14	日		14	火	14	金	14	月			
15	水	1～3年定期健康診断(午後から)	15	金		15	月	15	水	15	土	15	火	15	水		
16	木		16	土		16	火	16	木	16	日	16	水	16	木		
17	金		17	日		17	水	17	金	九州沖縄地区高専体育大会(夏季)	17	月	17	火			
18	土	開校記念日、TOEIC検定試験	18	月		18	木	18	土		18	火	久留米高専体験セミナー	18	金		
19	日		19	火		19	金	19	日		19	水	全国高専体育大会	19	土		
20	月		20	水		20	土	音楽祭(予定)	20	月	海の日	20	木	20	日		
21	火		21	木		21	日		21	火	夏季休業(～8/30)、開寮(12:00)	21	金	21	月		
22	水		22	金		22	月		22	水		22	土	22	火		
23	木		23	土	後援会総会・保護者懇談会	23	火		23	木		23	日	23	水		
24	金	↑1年生合宿研修(4/24,25)	24	日		24	水		24	金		24	月	24	木		
25	土	↓	25	月		25	木		25	土		25	火	25	金		
26	日		26	火		26	金		26	日		26	水	26	土		
27	月		27	水		27	土		27	月		27	木	27	日		
28	火		28	木		28	日		28	火		28	金	28	月		
29	水	昭和の日	29	金		29	月		29	水		29	土	29	火		
30	木		30	土		30	火		30	木	開寮(12:00)	30	日	30	水		
			31	日					31	金							
4/8始業式日に新入生は数学診断テスト 新入生合宿研修を受講時数として取扱う (不足分は特別教育期間等)に実施 交通安全教育を16時30分～に実施する クラスマッチの開催日時は学生会と協議			*:専攻科平常授業			音楽祭の開催日時は学生会と協議 *:専攻科平常授業			夏期休業 7/21～8/30 九州沖縄地区高専体育大会(夏季) 10日、授業休業 11～12日 西日本地区高専弓道大会 (本校担当にて開催) 未定 西日本地区高専空手道大会			27～28日 九州沖縄地区高専英語弁論大会 (本校担当にて開催) 18～28日 全国高専体育大会 (22～23日バドミントンは本校担当にて開催)			9月に中学校訪問を実施する		